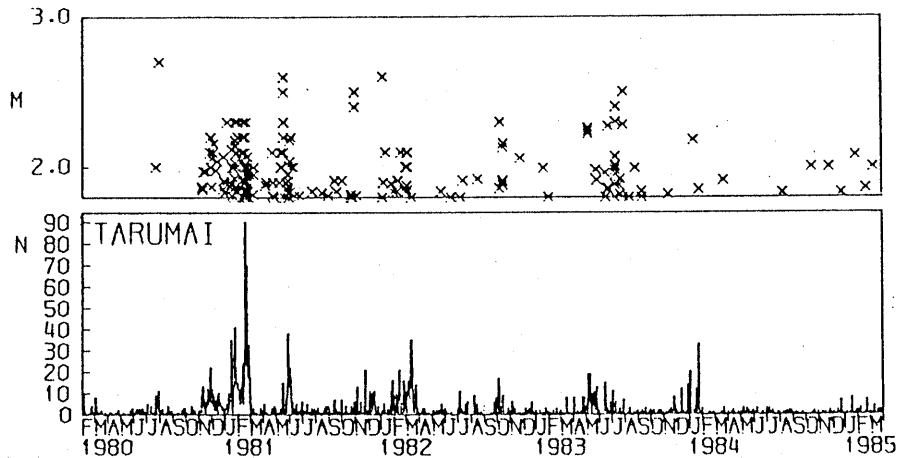


樽前山・有珠山の最近の火山活動の状況*

北海道大学理学部有珠火山観測所

1. 樽前火山の最近の地震活動（1985年3月まで）

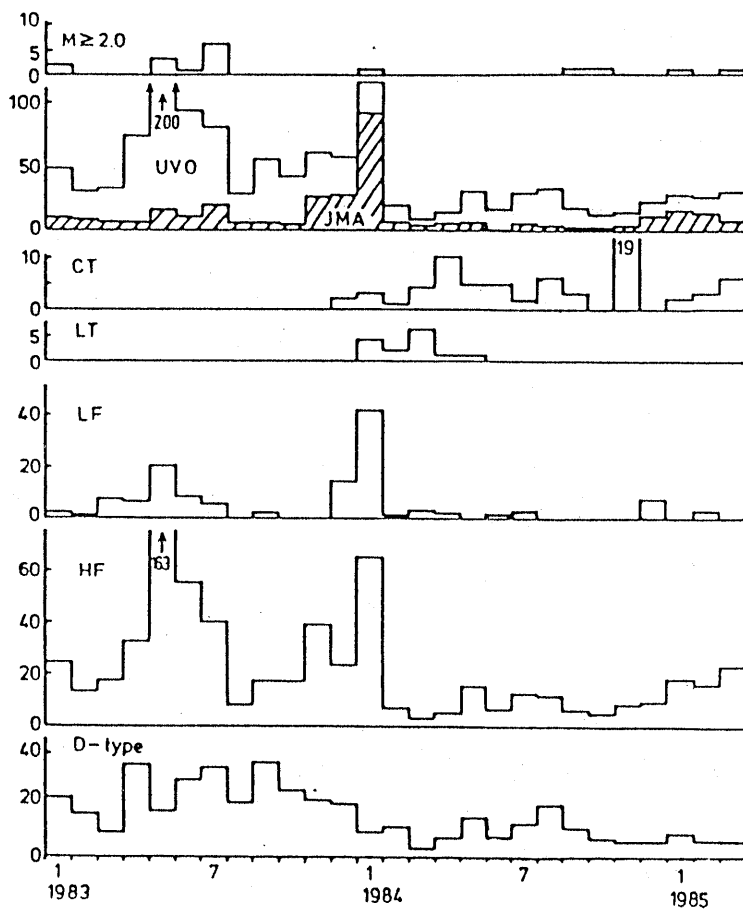


第1図 有珠火山観測所による樽前山の日別地震回数と $M \geq 1.8$ の地震の発生状況

Fig.1 Daily frequency of volcanic earthquakes and large earthquakes by UVO at Mt. Tarumai.

第1図の日別地震数は前報¹⁾に述べたように、1984年2月以後数回以下であり、 $M \geq 1.8$ の比較的大きな地震の発生も少なく、静穏な状態が持続している。このことは第2図の類型別の月別地震数からも明らかである。活動の活発な時期によく検知される低周波地震(LF)の発生も少なく、1984年1月-5月に検知された長周期孤立微動(LT)は1984年5月5日を最後にその後観測されていない。1984年11月に連続微動(CT)が増加しているが、観測された連続微動は何れも極く小さいもので(WCRでp-p 2 mkin以下)、活動の活発化を意味するものではない。従って、樽前火山の地震活動は引続き静穏な状態にあると言える。

* Received Aug. 22, 1985

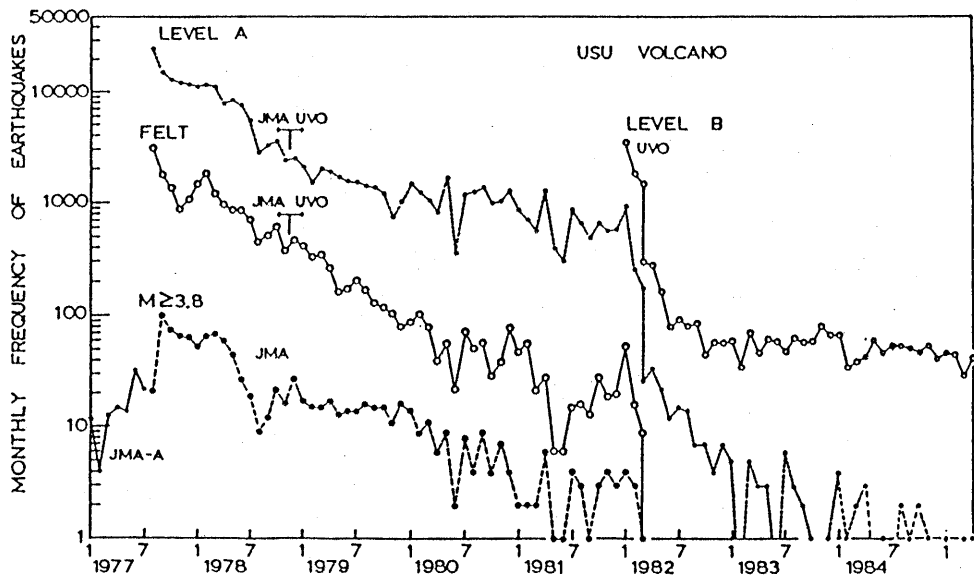


第 2 図 類型別の月別地震・微動回数

Fig.2 Monthly frequency of volcanic earthquakes and tremors at Mt. Tarumai.

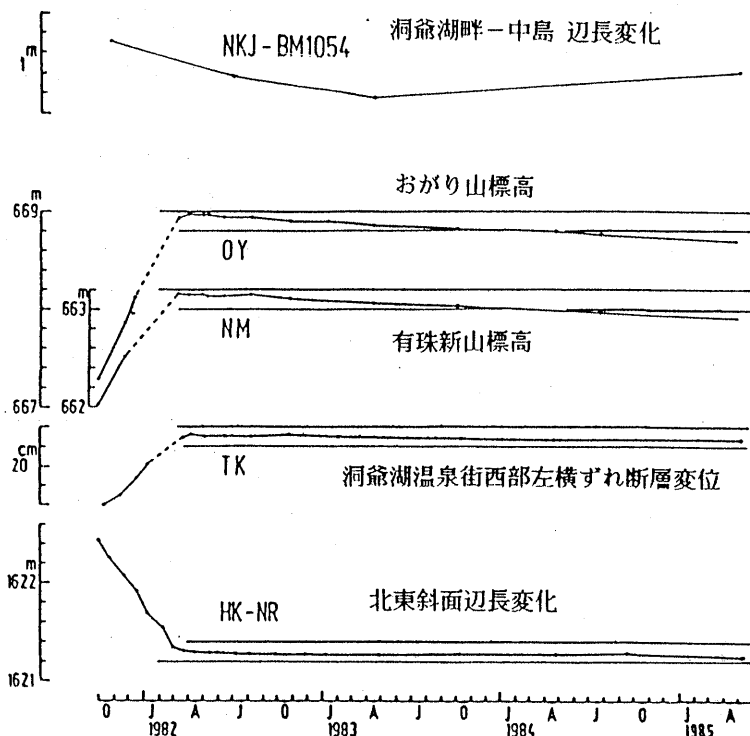
2 有珠火山の最近の地震活動及び地殻変動（1985年4月まで）

地震活動は前報²⁾までに述べたように1982年3月中旬の小群発地震活動を最後として不連続的な低下を示し、以後ほぼ一定のレベルを示している（第3図、各レベル³⁾については前々報²⁾を参照）。前報以後の期間ではばらつきはあるものの、長期的には若干の低下傾向が認められる。第4図は地殻変動の近況を示しているが、前報²⁾までに述べたように、大部分の地殻変動が1982年3月に不連続的に変化し、火頂火口原中心へ向かっての小さな変位に転じている。しかし、湖畔と中島の間だけは1982年3月以後も、それ以前と同じ外側へ向かう変位を示していた。これも、1983—84年に、山体中心へ向かう変位に転じ、他と同様に終息状態に移行したと考えられる。



第3図 有珠山の月別地震回数

Fig.3 Monthly frequency of volcanic earthquakes at Mt. Usu.



第 4 図 有珠山の地殻変動：有珠新山（NM）およびオガリ山（OY）の高度変化，洞爺協会病院前道路の断層変位（TK），湖岸と北外輪山（HK-NR）および湖畔と中島（NKJ-BM1054）の辺長変化。

Fig. 4 Crustal deformation at Mt. Usu : heights of Ogari-yama (OY) and of Usu-shinzan (NM) ; fault displacement at Toya Kyokai Hospital (TK) ; and distances between the south shore of Lake Tora and the north rim of Mt. Usu (HK-NR), and between the south shore and the central islands of Lake Toya (NKJ-BM1054).

参 考 文 献

- 1) 北海道大学理学部附属有珠火山観測所 (1985) : 樽前山火山観測 (1984年6月-1985年3月), **33**, 36-38.
- 2) 同上 (1984b) : 有珠山・噴火終息後の地殻変動と地震活動, 同上, **31**, 50-51.
- 3) 同上 (1984a) : 有珠山の地震活動-活動終息後の概況 (1982年~1983年), 同上, **30**, 114-117.